**平成28年度全国大学病院輸血部会議宣言**

**平成28年10月7日（金）**　**金沢市文化ホール**　**当番校　富山大学**

その１）**全国大学病院輸血部門の在り方　（多様な医療分野との横断的な領域を担う部門）**輸血・細胞療法の課題を克服するために、行政や日本赤十字社、及び日本輸血・細胞治療学会などとの密な連携を構築する。

その２）**輸血教育の量と質**

医学国際基準の輸血教育を実現するために、全国大学病院輸血部会議から、医療職の　　　卒前・卒後教育プログラムの行動指針を策定し、全国共通のシラバスや教材を作成・提供する。

その３）**照射装置の線源廃棄**

日本赤十字社からの照射血の供給体制が確立し、現有の照射装置の老朽化がすすむ現状と核セキュリテイの観点から、原子力規制委員会、厚生労働省、文部科学省ならびに全国医学部長病院長会議へ照射装置のＣｓ線源の廃棄方法、資金の検討を要請する。

その４）**看護師の参加の促進**

輸血関連学会の認定看護師が大学病院で指導的な立場で輸血・細胞治療業務をおこなっている現状を受け、看護師の参加を促し、大学病院における特有の輸血業務に関わる問題を検討する看護師研究会（仮称）の設立を提案する。

その５）**細胞治療への対応**

細胞治療の進歩に伴う高度先進医療を担う大学病院の輸血部門において、人材育成、技術の習得を支援し、再構築に向けたノウハウを共有する。

その６）**高水準の輸血検査の提供**

大学病院輸血部門として、高水準の輸血技術を習得、維持するとともに、地域の拠点病院として、人材育成や知識・技術向上に貢献する。